

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102576		
法人名	有限会社ハピネス		
事業所名	グループホームひまわり	ユニット名	夢
所在地	静岡県浜松市東区中野町店4258		
自己評価作成日	平成29年11月1日	評価結果市町村受理日	平成30年2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JgyosvoCd=2277102576-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成29年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の離職率が低く、研修も多く、全員が資格取得に向けて取り組んでいます。目標を持って生き活きと働ける環境作りをし、入居者様・御家族様との信頼関係を築く努力をしています。特にターミナルケアにおいては、入居者様と御家族様のお気持ちに寄り添い、きめ細かな支援が行えるよう取り組んでいます。明るく家庭的な雰囲気ホーム作りになるように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

パンフレットには理念と共にグループホームの業務をQ&Aで分かりやすく説明する配慮しており、全職員は理念の実践に向け共通意識の下で支援している。事業所では各々の職員のキャリアアップも見据え、利用者の「個を尊重し、生きがいのある、安心した暮らし」をサポートできる人材の育成と、活力ある職場環境づくりに取り組んでいる。また地域住民との交流を積極的に進め、日常的に近所付き合いのできる信頼関係を築いている。当事業所は水害想定地域内にあることから、事業所の見取り図等の資料とあわせ必要な情報を共有して、利用者の避難に際しての近隣住民の協力を取付けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、研修室内に掲示し、入社時はもちろん役職研修等でも再確認している。	事業所の理念「個を尊重し、生きがいのある、安心した暮らし」の実現のために、明るく家庭的な雰囲気のある事業所づくりを目指している。研修等を通して理念の周知を図り、全職員が共通意識で取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加している。自治会の屋台の休憩所として、駐車場を利用し、お祭りの盆踊りを開催し、子供会へのゲーム等のおもてなしを行う。近隣の方達による年1~2回演奏会を開催している	近隣の夏祭りでは、事業所も盆踊り会場の一つとなり、子供会との交流や住民バンドによる演奏会等、地域の一員として利用者や職員が共に楽しみながら、近所付き合いのできる信頼関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して参加された家族や面会に来られた家族に対して行っている。コミュニケーションを通し、入居者様、認知症状をお伝えして理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議は2ヶ月に一度開催し、運営状況の報告や入居者様の生活向上に向けた話し合いを行っている。地域代表の方の提案やレクを取り入れている。	運営推進会議の定期的な開催と状況報告、地域住民代表の意見や提案等を運営に反映することを実践している。一方で構成メンバーの固定傾向が課題として検討されているが、改善への具体策はまだ見出していない。	運営推進会議の開催は、家族はもとより行政や住民等の関係者と意思疎通を図り、信頼関係を築くことにある。近隣住民や参加できていない家族なども招待する工夫が求められる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の方の運営推進会議への参加があり、相談しやすく、ご意見も頂く機会がある。また、生活保護の受け入れを通してこまめな連絡をしている。	行政担当者とは密に連携し、情報交換して信頼関係を築いている。関係する協議会等への参加を通して、他の事業所の現状等も含め、施設運営を取り巻く社会福祉の現状等の情報を収集している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初から身体拘束については全職員が理解されていてゼロ宣言しているが、入居者様の生命に関わる際は、規定に添って実践することもある。研修も実践し理解を深めている。	身体拘束廃止委員会を定期的に行い、現状確認や知識、スキル等のサポートを行い、身体拘束をしないケアを実践している。職員は外部研修や毎月開催する内部研修で身体拘束や虐待に関する理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	全職員が何が虐待に当てはまるかをきちんと理解し、虐待が見過ごされないように常に注意を払っている。年1回の研修も実践して、より一層理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者様がいらっしゃる為、面会時等にコミュニケーションをはかり知識を得ている。また気軽に相談できる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談、訪問調査、契約時には内容説明を分かり易く行い、入居後もご家族の不安などを尋ね、相談、説明することにより理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず日々の状況報告(食事・入浴・排泄・睡眠等を含む)や相談等を各フロア担当者が行っている。顔なじみになることで、気軽に相談やご意見を頂いて信頼関係を作っている。	家族の来訪には必ず担当者が対応して面談の詳細を記録し、連絡ノートで職員間で共有している。家族には事業所便りで日々のケアに関する細かい情報を伝え、意見や要望等に応えるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員に業務を持ってもらい運営者や幹部職員が定期的に面接を行い意見や提案を聞く機会を設けて反映するように努めている。	職員は「目標設定シート」にもとづき、年間を通して自己評価を行い支援の振り返りを行っている。それらの結果を踏まえ、管理者や幹部職員が定期的に面談を行い、職員の意見を運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの状況把握に努め勤務調整や雇用形態の変更をし、随時面談し変更している。さらなるスキルアップできるように会社としてバックアップしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	処遇改善研修を実施させ、職員一人ひとりの状況に合わせ法人外部研修参加を促し、介護福祉士取得に向け実務者研修への参加を全面的に応援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の一環で他法人の施設へ出向くこともある、管理者をはじめ、他職員と外部研修に参加することで、同業者と交流し、ネットワーク作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から入居される待機期間中に、職員がご本人の自宅や施設等に伺ったり、施設見学や食事体験など、数時間過ごして頂くことも実践している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの時点で、御家族が抱えている不安や悩み、施設への要望を確認しこまめに連絡しながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時や入居後においても随時ヒアリングを行い、ご本人、御家族を支援していく上で必要と感じた際には、社会資源が有効に使えるよう、事前に調査し、提供できるよう体制を整えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりに合ったできないことを見極め、できることは職員と一緒にいき、共に過ごせるような雰囲気作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居申し込み時暮らしを共にする家族のような関係作りをすることを御家族に理解して頂き面会時や電話などでご本人と御家族との絆も大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居される時には、ご本人が今まで生活の中で使っていた家具や仏壇など持ってきて頂いている。また面会もご家族以外の方が見えることもあり、継続した関係作りが出来ている。	現役当時の仕事関係者や信仰のある宗教関係者の来訪、さらに過去に利用した福祉施設の職員が面会に来るなど、懐かしい人々との関係が続いている。馴染みの場所への外出等も家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃、1、2階入居者様同士で過ごせる機会、コミュニケーションを大切にしている。気の合いそうな方達の席を一緒にすることなど、随時行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も御家族の苦労や経過を追い電話や手紙等でやりとりすることもある。相談や施設、病院等の転院等をフォローし支援を継続させている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「本人はどうしたいのか」ということを考えた支援を心がけ、意思表示の困難の方に対しては、その方の性格や生活歴、その他に御家族等から得た情報を踏まえ、本人主体となるような関わりが持てるよう努めている。	家族等関係者の持つ情報から、フェイスシートを活用して生活歴等を把握している。本人主体の生活を支援の中心に据え、日常的な関わりの中で、表情などから本人の思いを汲み取ることに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人、ご家族より情報収集を行い、当施設でも馴染みのある生活が出来るように配慮している。一人を好まれる方へは、無理に集団生活に誘わず、個別に対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何かを強制するのではなく、その人の状態に合わせて居室で休んだりテレビを観たり新聞を読んだりのご本人のペースで生活して頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアの統一を図るためにケアノートを活用し、短時間であるが毎日行っているカンファレンスで情報収集や交換を行い及び共有することで介護計画に反映されている。	毎日短時間のカンファレンスで情報を積み上げ、現状に即した情報の共有とケアの統一を図っている。その上でサービス担当者会議における話し合いをより充実させ、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の言動をしっかりと記録し、共有している。ケアプランを通して、ケアの実践を毎日行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族の要望に応じて買い物や外食支援、イベントを企画し、個別の関わりと支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の行事に参加することによって、入居者様と地域の方が交流する機会を設けており、バンド演奏等のボランティアを招いている。スーパー、公園等も利用し、資源の活用に心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は契約している往診医との連携により、夜間や休日でも速やかな対応ができるようにすることを目的に御家族には理解を得ているが、引き続きかかりつけ医への受診を希望される御家族については、継続して受診を行っている	かかりつけ医として、昼夜に関わらず対応可能な往診専門の医療機関と連携している。他に、利用者や家族が希望する医療機関での受診も対応が可能である。これらの支援内容は利用者や家族の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診前に状態の変化や相談したい内容についてまとめ、指示、助言等共有できるようにしている。また電話でも随時相談できるような関係作りを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医師、看護師、職員と随時確認を行いながら、円滑に退院までの流れを作れるよう努めている。また入院期間中も関係性が途切れないよう、面会にいける環境作りを心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に、重度化した際の確認をとって、看取りを行っている。早い段階で医師や家族、事業所で話し合い、入居者様の状態は御家族に密に連絡している。職員は後悔することがないように、できる限りのことをと常に頭に入れて支援している。	入居に際し、重度化や終末期の対応を書面で説明し、同意を得た上で看取りの介護に備えている。本人の状態の変化に応じて、家族や医療関係者とも十分に話し合い、事業所全体として、できる限りの態勢で終末期の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応は、入職時処遇研修にて研修し、マニュアル化している。災害時の応急手当は防災訓練時に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難用滑り台の設置、災害時対応・風水害マニュアルを作成し、入居者様の避難を想定した訓練等を年3回実施している。近隣の3軒へは、入居者状況を年2回お伝えし、応援を依頼して心よく引きうけてくれている。	当事業所は水害想定地域にあり、具体的な避難場所や対応がマニュアルで示されている。利用者の避難に際して近隣住民の協力を取付けており、事業所の見取り図とあわせて車椅子利用者の情報を共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ライフコンディションシートを活用し、生活史を知る。性格等も見極め、尊重した対応するようにしている。	一人ひとりの性格や生活史を把握し、本人にとって馴染みがあり心地よい愛称や名字・名前等と呼び名としている。各々の利用者に応じて日常的に使用するなど、人格の尊重やプライバシーに配慮した対応を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「本人はどうしたいのか」また、意思表示が困難な方は「本人ならどうしたいのか」という本人主体となる考え方を念頭に、可能な限り本人の思いや希望を表現できるような関わりを意識している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意思で行動できるような声かけをしペースを大切にしながら生活リズムを作っていけるような可能な限り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、整容介助に努めて、一人一人の好みの色の服を準備したり、髪型の提案をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様一人一人の力を活かしながら、食事の盛り付けや食器洗い・拭きなど出来ることを職員と行っている。一緒に食事をする事で、楽しみにつながる食事となっている。	食材は業者から調達し、事業所内で2ユニット分をまとめて調理している。一人ひとりの食事量にも配慮し、利用者も積極的に手伝いながら配膳や片付けを行うなど、食事の時間を楽しむことのできる支援を実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量を把握し、食事形態や盛り付ける量を個別に工夫し、美味しく召し上がって頂けるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを心がけ、夕食後には歯磨きやうがいなど入居者様に応じた口腔ケアを行っている。週1回は義歯使用の方は洗浄を行っている。歯科の訪問もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンやサインを共有し行動から無理のなく排泄し、気持ちよく過ごして頂けるよう声かけ誘導し、トイレへ行くことが出来るよう支援している。	一人ひとりの習慣やサインから、さりげない誘導によりトイレでの排泄につながるような支援を実践している。便秘予防のためにも水分を多めに摂取してもらうことに気配りしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や10時のおやつに、牛乳をお出ししたりひまわり体操をとりにいれて便秘の予防につなげたり、腹部マッサージや水分補給に気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望や体調に合わせて入浴できるようにし、週2回以上入れるように急がせず会話を楽しみながら、入浴できる環境づくりをしている。	週2回以上入浴できるように配慮しており、突然の入浴希望にも業務担当者が職員配置を行い、本人の希望に添えるよう努力している。リフト浴も可能で、湯に肩まで浸かるなど楽しみにつながる支援を実践している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後からは落ち着いた生活が出来るように温度や照明、物音などに配慮し環境を整え、夜間安心して休んで頂けるよう心掛けている。昼寝をしたい方や体力のない方は、居室へ誘導して、短時間の休憩して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どんな薬を飲んでいるのか、すぐ分かるように内服薬説明書をファイリングしている。また、入居者様の状態変化は医師に相談し、薬の形状や内服方法も随時個別に変更している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯物干し、食器拭きなど個々の能力を生かした生活や童謡のCDを聴いたり、雑巾縫いなど充実した生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望や身体状況に合わせ、買い物や散歩など楽しみが持てるような外出支援を心掛けている。毎日訴える方へも職員配置が可能な時間に戸外へ散歩に出かける。	当事業所は幹線道路から離れた場所の、周囲に田畑が広がる環境にある。天気の良い日には必ず事業所の庭や周辺を散歩している。徒歩で行くことのできる近隣のスーパーマーケットで、職員と一緒に買い物を楽しむゆとりがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状況に合わせ、ご自分で管理できる場合には所持して頂いている。また、買い物の際には状況に応じてご自分で支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談の上、電話して頂けるよう支援している。手紙も預かり、投函している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔はスタッフ同士で力を入れており整えている。温度・湿度管理を行っている。イベント行事を行うことで季節感を感じて頂けるように支援したり、各フロアの入口に入居者様のイベント時の写真を掲載するようにしている。	事業所全体が落ち着いた雰囲気です統一されている。フロアの入り口付近にはイベントの写真が掲示され、テーブルには透明なテーブル敷きの下に、季節の行事に関する色紙を見ることができる。清掃は当番職員が事業所内すべてを行い清潔を保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファーに座ったり、別フロアの入居者様との交流を持つなどして、その人に合った落ち着ける場所や安心できる場所を作れるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご本人、ご家族と相談し慣れ親しんだ物を置いて頂き、少しでも安心した暮らしが出来るような居室づくりに努めている。	居室の入り口には墨書きの表札が掲げられ、自宅玄関のような雰囲気を演出している。使い慣れた鏡台や懐かしい写真が飾られ、できるだけ以前と変わらずに過ごせるような環境づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の前に表札を設置し、廊下に手すりを設けることで安心な生活が送れるようにしている。各ユニットに3カ所のトイレがあり、フロアには必ずスタッフがいるようにマニュアル化している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102576		
法人名	有限会社ハピネス		
事業所名	グループホームひまわり	ユニット名	空
所在地	静岡県浜松市東区中野町店4258		
自己評価作成日	平成29年11月1日	評価結果市町村受理日	平成30年2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&lgvosyoCd=2277102576-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成29年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の離職率が低く、研修も多く、全員が資格取得に向けて取り組んでいます。目標を持って生き活きと働ける環境作りをし、入居者様・御家族様との信頼関係を築く努力をしています。特にターミナルケアにおいては、入居者様と御家族様のお気持ちに寄り添い、きめ細かな支援が行えるよう取り組んでいます。明るく家庭的な雰囲気ホーム作りになるように心掛けています。

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、研修室内に掲示し、入社時はもちろん役職研修等でも再確認している。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加している。自治会の屋台の休憩所として、駐車場を利用し、お祭りの盆踊りを開催し、子供会へのゲーム等のおもてなしを行う。近隣の方達による年1~2回演奏会を開催している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して参加された家族や面会に来られた家族に対して行っている。コミュニケーションを通し、入居者様、認知症状をお伝えして理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議は2ヶ月に一度開催し、運営状況の報告や入居者様の生活向上に向けた話し合いを行っている。地域代表の方の提案やレクを取り入れている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の方の運営推進会議への参加があり、相談しやすく、ご意見も頂く機会がある。また、生活保護の受け入れを通してこまめな連絡をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初から身体拘束については全職員が理解し、ゼロ宣言しているが、入居者様の生命に関わる際は、規定に添って実践することもある。研修も実践し理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が何が虐待に当てはまるかをきちんと理解し、虐待が見過ごされないように常に注意を払っている。年1回の研修も実践していて、より一層理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者様がいらっしゃる為、面会時等にコミュニケーションをはかり知識を得ている。また気軽に相談できる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談、訪問調査、契約時には内容説明を分かり易く行い、入居後もご家族の不安などを尋ね、相談、説明することにより理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず日々の状況報告(食事・入浴・排泄・睡眠等を含む)や相談等を各フロア担当者が行っている。顔なじみになることで、気軽に相談やご意見を頂いて信頼関係を作っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員に業務を持ってもらい運営者や幹部職員が定期的に面接を行い意見や提案を聞く機会を設けて反映するように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの状況把握に努め勤務調整や雇用形態の変更をし、随時面談し変更している。さらなるスキルアップできるように会社としてバックアップしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	処遇改善研修を実施させ、職員一人ひとりの状況に合わせ法人外部研修参加を促し、介護福祉士取得に向け実務者研修への参加を全面的に応援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の一環で他法人の施設へ出向くこともある、管理者をはじめ、他職員と外部研修に参加することで、同業者と交流し、ネットワーク作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から入居される待機期間中に、職員がご本人の自宅や施設等に伺ったり、施設見学や食事体験など、数時間過ごして頂くことも実践している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの時点で、御家族が抱えている不安や悩み、施設への要望を確認しこまめに連絡しながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時や入居後においても随時ヒアリングを行い、ご本人、御家族を支援していく上で必要と感じた際には、社会資源が有効に使えるよう、事前に調査し、提供できるよう体制を整えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりに合ったできないことを見極め、できることは職員と一緒にいき、共に過ごせるような雰囲気作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居申し込み時暮らしを共にする家族のような関係作りをすることを御家族に理解して頂き面会時や電話などでご本人と御家族との絆も大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居される時には、ご本人が今まで生活の中で使っていた家具や仏壇など持ってきて頂いている。また面会もご家族以外の方が見えることもあり、継続した関係作りが出来る。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃、1、2階入居者様同士で過ごせる機会、コミュニケーションを大切にしている。気の合いそうな方達の席を一緒にすることなど、随時行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も御家族の苦労や経過を追い電話や手紙等でやりとりすることもある。相談や施設、病院等の転院等をフォローし支援を継続させている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「本人はどうしたいのか」ということを考えた支援を心がけ、意思表示の困難の方に対しては、その方の性格や生活歴、その他に御家族等から得た情報を踏まえ、本人主体となるような関わりが持てるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人、ご家族より情報収集を行い、当施設でも馴染みのある生活が出来るように配慮している。一人を好まれる方へは、無理に集団生活に誘わず、個別に対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何かを強制するのではなく、その人の状態に合わせて居室で休んだりテレビを観たり新聞を読んだりご本人のペースで生活して頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアの統一を図るためにケアノートを活用し、短時間であるが毎日行っているカンファレンスで情報収集や交換を行い及び共有することで介護計画に反映されている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の言動をしっかりと記録し、共有している。ケアプランを通して、ケアの実践を毎日行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族の要望に応じて買い物や外食支援、イベントを企画し、個別の関わりと支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の行事に参加することによって、入居者様と地域の方が交流する機会を設けており、バンド演奏等のボランティアを招いている。スーパー、公園等も利用し、資源の活用に心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は契約している往診医との連携により、夜間や休日でも速やかな対応ができるようにすることを目的に御家族には理解を得ているが、引き続きかかりつけ医への受診を希望される御家族については、継続して受診を行っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診前に状態の変化や相談したい内容についてまとめ、指示、助言等共有できるようにしている。また電話でも随時相談できるような関係作りを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医師、看護師、職員と随時確認を行いながら、円滑に退院までの流れを作れるよう努めている。また入院期間中も関係性が途切れないよう、面会にいける環境作りを心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に、重度化した際の確認をとって、看取りを行っている。早い段階で医師や家族、事業所で話し合い、入居者様の状態は御家族に密に連絡している。職員は後悔することがないように、できる限りのことを常に頭に入れて支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応は、入職時処遇研修にて研修し、マニュアル化している。災害時の応急手当は防災訓練時に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難用滑り台の設置、災害時対応・風水害マニュアルを作成し、入居者様の避難を想定した訓練等を年3回実施している。近隣の3軒へは、入居者状況を年2回お伝えし、応援を依頼して心よく引きうけてくれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ライフコンディションシートを活用し、生活史を知る。性格等も見極め、尊重した対応するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「本人はどうしたいのか」また、意思表示が困難な方は「本人ならどうしたいのか」という本人主体となる考え方を念頭に、可能な限り本人の思いや希望を表現できるような関わりを意識している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意思で行動できるような声かけをしペースを大切にしながら生活リズムを作っていけるような可能な限り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、整容介助に努めて、一人一人の好みの色の服を準備したり、髪型の提案をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様一人一人の力を活かしながら、食事の盛り付けや食器洗い・拭きなど出来ることを職員と行っている。一緒に食事をする事で、楽しみにつながる食事となっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量を把握し、食事形態や盛り付ける量を個別に工夫し、美味しく召し上がって頂けるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを心がけ、夕食後には歯磨きやうがいなど入居者様に応じた口腔ケアを行っている。週1回は義歯使用の方は洗浄を行っている。歯科の訪問もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンやサインを共有し行動から無理のなく排泄し、気持ちよく過ごして頂けるよう声かけ誘導し、トイレへ行くことが出来るよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や10時のおやつに、牛乳をお出ししたりひまわり体操をとりにいれて便秘の予防につなげたり、腹部マッサージや水分補給に気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望や体調に合わせて入浴できるようにし、週2回以上入れるように急がせず会話を楽しみながら、入浴できる環境づくりをしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後からは落ち着いた生活が出来るように温度や照明、物音などに配慮し環境を整え、夜間安心して休んで頂けるよう心掛けている。昼寝をしたい方や体力のない方は、居室へ誘導して、短時間の休憩して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どんな薬を飲んでいるのか、すぐ分かるように内服薬説明書をファイリングしている。また、入居者様の状態変化は医師に相談し、薬の形状や内服方法も随時個別に変更している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯物干し、食器拭きなど個々の能力を生かした生活や童謡のCDを聴いたり、雑巾縫いなど充実した生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望や身体状況に合わせ、買い物や散歩など楽しみが持てるような外出支援を心掛けている。毎日訴える方へも職員配置が可能な時間に戸外へ散歩に出かける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状況に合わせ、ご自分で管理できる場合には所持して頂いている。また、買い物の際には状況に応じてご自分で支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談の上、電話して頂けるよう支援している。手紙も預かり、投函している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔はスタッフ同士で力を入れており整えている。温度・湿度管理を行っている。イベント行事を行うことで季節感を感じて頂けるように支援したり、各フロアの入口に入居者様のイベント時の写真を掲載するようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファーに座ったり、別フロアの入居者様との交流を持つなどして、その人に合った落ち着ける場所や安心できる場所を作れるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご本人、ご家族と相談し慣れ親しんだ物を置いて頂き、少しでも安心した暮らしが出来るような居室づくりに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の前に表札を設置し、廊下に手すりを設けることで安心な生活が送れるようにしている。各ユニットに3カ所のトイレがあり、フロアには必ずスタッフがいるようにマニュアル化している。		